

令和2年度決算

統一的な基準による伊勢崎市の財務書類【一般会計等】概要版

はじめに

伊勢崎市では市民の皆様によりよく理解していただくために、平成20年度決算から「新地方公会計制度」に基づく財務書類を作成しております。平成28年度決算からは、これまでの取組を発展させた「統一的な基準」による財務書類を作成し、公表しています。

「統一的な基準」による財務書類は発生主義ベースで作成されますので、減価償却費のような現金の支出を伴わないコストの把握や、市の資産や借金といったストックの総体を一覽的に把握でき、従来の決算書では分からなかった情報を得ることができます。

貸借対照表（BS）

本市の資産は約4,218.8億円、負債は約810.1億円、純資産は約3,408.8億円です。資産に対する負債と純資産の割合は、おおよそ1：4です。

主な資産は、道路・橋梁、小・中学校などの有形固定資産であり、その金額は約3,958.4億円です。その他に投資及び出資金が約107.2億円、基金（固定資産及び流動資産）が約99.6億円、現金預金が約40.3億円、債権（長期延滞債権及び未収金）が約13.6億円あります。過去の不納欠損実績を踏まえると、債権のうち約1.3億円は、徴収不能と見込まれます。

主な負債は、地方債（固定負債及び流動負債）が約685.6億円、退職手当引当金が約104.9億円です。

固定資産	4,118億8,929万円	負債 ※将来世代の負担	810億534万円
道路・橋りょう・小・中学校など		地方債など	
		純資産 ※過去・現世代の負担	3,408億7,549万円
流動資産	99億9,154万円	現在までの世代負担額	
基金・現金など			
資産合計 ※市の財産	4,218億8,083万円	負債・純資産合計	4,218億8,083万円

市民一人あたり ※	
資産額	198万円
負債額	38万円
減価償却率	66.6%

純資産変動計算書（NW）

本市の前年度末純資産残高は約3,472.0億円、本年度末純資産残高は約3,408.8億円で、純資産が約63.2億円減少しました。主な要因は、固定資産台帳の精緻化により無償所管換等で固定資産等形成分が約55.2億円減少したことによるものです。また、純行政コスト約893.3億円に対して、税収や地方交付税収入、国県等補助金等受入等の財源収入が約884.9億円であり、財源収入にて純行政コストを賄いきれていないことを表しています。

前年度末純資産残高	3,471億9,982万円
純行政コスト	△893億3,462万円
税収、国や県からの補助金など	884億8,817万円
無償取引による資産の増減など	△54億7,788万円
本年度末純資産残高	3,408億7,549万円

市民一人あたり ※	
純資産	160万円

行政コスト計算書（PL）

本市の経常費用は約936.7億円、経常収益は約39.3億円であり、差引きしますと純経常行政コストは約897.4億円です。また、臨時損失は約5.3億円、臨時利益は約9.4億円であり、純行政コストは約893.3億円です。

純経常行政コストの内訳をみると、経常費用は人件費が約132.2億円、物件費等が約281.6億円、その他の業務費用が約10.8億円、移転費用が約512.0億円です。

一方、経常収益は、使用料及び手数料が約9.9億円、その他の収益が約29.4億円です。

市民一人あたり ※	
純行政コスト	42万円

経常費用	936億6,562万円
業務費用	424億6,281万円
人件費 (職員給与など)	132億1,706万円
物件費等 (委託料、減価償却費など)	281億6,490万円
その他の業務費用 (借入金の利息支払など)	10億8,085万円
移転費用	512億281万円
経常収益	39億2,533万円
使用料及び手数料	9億8,969万円
その他	29億3,564万円
純経常行政コスト	897億4,029万円
臨時損失	5億3,246万円
臨時利益	9億3,813万円
純行政コスト	893億3,462万円

※伊勢崎市総人口（令和3年4月1日現在）212,946人により算出

おわりに

伊勢崎市は、計画的な予算編成と効率的で効果的な事業の執行に取り組みつつ、市広報紙やホームページにより、予算・決算の概要や年度の執行状況、財務諸表、予算編成方針などを積極的に分かりやすく公表することにより、透明で健全な財政運営に努めるとともに、財政に対する市民の関心度を高め、説明責任を果たします。

資金収支計算書（CF）

本市の業務活動収支は約49.5億円、投資活動収支は約△20.8億円、財務活動収支は約△23.0億円で、その結果、歳計現金が約5.7億円増加しました。

投資活動収支は、収支差額がマイナスとなっておりますが、これは公共資産や基金等への投資が進んだことを意味しており、財政が悪化していることを示すものではありません。資金の流れに着目すると、業務活動収支の黒字額を、投資活動収支と財務活動収支の不足額に補填しています。

市民一人あたり ※	
現金預金残高	2万円

業務活動収支 (市税や業務費用など)	49億4,817万円
投資活動収支 (資産形成や貸付など)	△20億7,673万円
財務活動収支 (地方債の借入や償還など)	△23億280万円
本年度資金収支額	5億6,864万円
前年度末資金残高	26億6,708万円
本年度末資金残高	32億3,573万円

前年度末歳計外現金残高	8億5,030万円
当年度歳計外現金増減額	△6,101万円
本年度末歳計外現金残高	7億8,929万円
本年度末現金預金残高	40億2,502万円

お問い合わせ

〒 372-8501

群馬県伊勢崎市今泉町二丁目410番地

伊勢崎市 財政部財政課理財係

TEL 0270-27-2712（直通）

ぜひ財務書類の分析資料もあわせてご覧ください。

